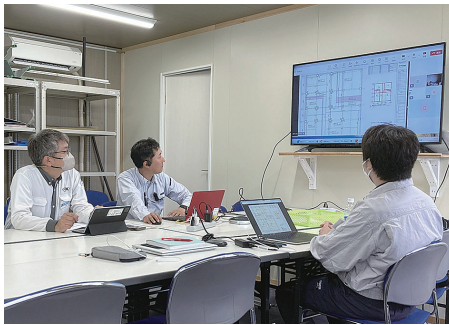


生産性向上ツールに進化

野原グループのBIM支援基盤



野原グループ（東京都新宿区、野原弘輔社長）は、BIM設計・製造・施工支援プラットフォーム「Build App（ビルドアップ）」の利便性を高める。

内装工事向け「Build App内装」の機能で2月にリリースした「建材数量・手配サービス」について、内装工事会社などユーザーの意見を反映し、7月にアップデートする。内装工事会社などの打ち合わせ内容やBuild Appから

打ち合わせの様子（野原グループ提供）

出図する資料などをウェブ上で一元管理できるようにし、生産性向上ツールへと

進化させる。

同サービスは、ゼネコンが作成した生産設計BIM

モデルを基に、壁工事に必要な建材の数量を工区ごとに算出する。

BIMモデルに実測した壁の高さデータを掛け合わせ、建材の数量を正確に算出することで、同業務を行う。内装工事会社の番頭の作業時間を代替し、時間価値を提供する。

2月にサービス提供を始め、現時点で大手ゼネコン複数社の大規

サービス画面（野原グループ提供）

模案件での導入が決定。準大手・中堅ゼネコンからも使用の申し込みがあり、物件ごとに導入への調整を進めている。

同社は内装工事会社など現場の要望や声を常に吸い上げ、開発に反映させている。2月のリリース以降も改善を続け、今回、図面や資料のウェブ上での一元管理と、BIMモデルと平面詳細図の照合時に使う壁仕様図の改善でユーザーの利便性を高めた。

同社は今後、軽天ボードの天井や倉庫などに用いら

れる高壁に対応する拡張を行う。また、工程とコストの管理につながるサービスの構築を目指す。

同社Build App事業統括本部Build Appサービス開発統括部の平野洋行部長は「『建材数量・手配サービス』は、フロントローディングというBIMの根本思想を浸透させる第一歩。建築主や設計事務所、ゼネコン、内装工事会社などあらゆるステークホルダーが協業するあるべき姿の実現に向けて業界構造の変革に寄与したい」と将来像を語る。

